2023 姉妹都市 交流親善団体験記

MIYOSHI CITY
三好市

×

THE DALLES CITY
ザ・ダルズ市

2023 10/25~31

中学生団員 16 名を中心とした三好市姉妹都市交流親善団が、10 月 25 日から 31 日までの 7 日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市を訪問しました。

ザ・ダルズ市はロッキー山脈に源を発するコロンビア川下流域の南側にあり、川向かいはワシントン州となっています。ダルズという名はフランス語の le dalle「谷」に由来し、広大な渓谷の続く場所です。少なくとも一千年前からアメリカ原住民の商取引の中心地として栄えていたと言われており、北アメリカで最も古くから居住が始まったところです。

団員たちはホームステイを通じ、アメリカの大自然や文化に身近に触れるとともに、多くの方々とのコミュニケーションを通じて、新たな友情が生まれる貴重な経験をしました。

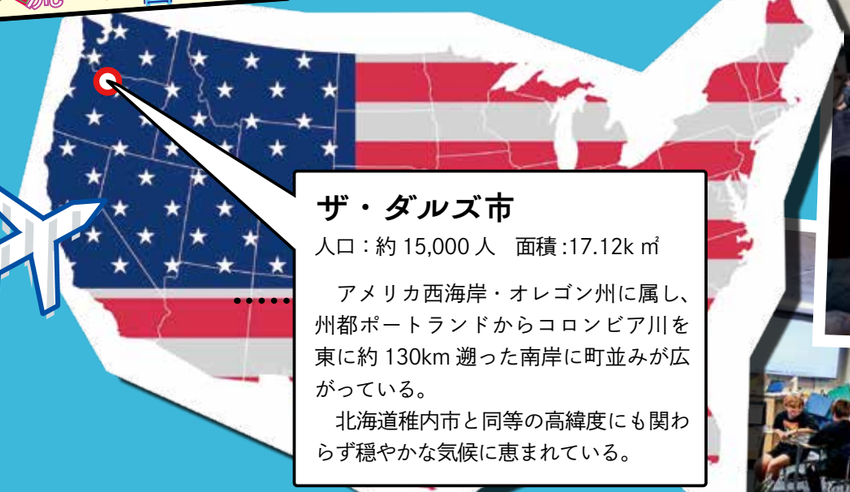
今回の派遣事業を通じて団員たちが、姉妹都市でどのような事を見て・聞いて・感じて来たのかを、ご紹介します。

日 程	スケジュール（現地時間）	
DAY-1 10/25（水）	7：00	三好市役所
	9：25	高松空港発
	15：45	羽田空港発
	13：01	サンフランシスコ発
	14：54	ポートランド着
		ザ・ダルズ市
	17：30	ホストファミリー対面式
DAY-2 10/26（木）	8：15	ザ・ダルズ中学校・高校訪問
	17：00	図書館
DAY-3 10/27（金）	8：15	市内見学
		ネオンサイン博物館
		買い物体験（本屋、アイスクリームショップ）
		ザ・ダルズ市警察署 表敬訪問
		ザ・ダルズ市庁舎 市長表敬訪問
DAY-4 10/28（土）	終日	ホストファミリーと一緒に過ごす
DAY-5 10/29（日）		ホストファミリーと一緒に過ごす
	16：00	じゃまたパーティー（送別会）
	18：30	ザ・ダルズ市出発
DAY-6 10/30（月）	6：00	ポートランド発
	11：35	サンフランシスコ発
DAY-7 10/31（火）	17：40	羽田空港発
	19：30	高松空港発
	20：30	三好市役所着

ザ・ダルズ市との姉妹都市交流の経過

- 1987年　ジャンボーズクラブ主催の中学生派遣
- 2003年　池田町とザ・ダルズ市が姉妹都市提携
- 2006年　三好市発足
- 2007年　三好市とザ・ダルズ市が姉妹都市提携

2023 姉妹都市 交流親善団体験記



ザ・ダルズ市

人口：約 15,000 人　面積 :17.12k ㎡

アメリカ西海岸・オレゴン州に属し、州都ポートランドからコロンビア川を東に約 130km 遡った南岸に町並みが広がっている。

北海道稚内市と同等の高緯度にも関わらず穏やかな気候に恵まれている。

大浦ひかり
HIKARI

三野中学校３年

5 日間とても楽しかったです。ヨガしたりアメリカの警察署行ったり初めての体験がたくさんできました。初めてアメリカの学校に行ったけどみんな自由で楽しそうだったし一緒にいてこっちまで楽しさが伝わってきて最高でした！アメリカの国歌を一緒に歌ったりもしました。ホストファミリーの方とは、土日お出かけをしました。土曜日は博物館にいきました。ゴキブリがいて日本のゴギブリより 2 周りくらい大きくてびっくりしました！他にもいろいろ展示してました。夕方に近所であったハロウィンパーティーに行きました。みんな仮装してて可愛かったしかっこよかったです。クイズしたりバスケしたり楽しかったです！日曜日は朝の 9 時からフット山に登ってレストランで朝食を食べました。フット山には雪が積もってました。ホストファミリーの方とお別れする時涙が出るほどいい思い出がたくさんできました。ほんとにとても楽しくて最高の 5 日間でした！

黒島 伊織
IORI

三野中学校３年

アメリカのザ・ダルズ市はスケールが大きく、違うことだらけで慣れるまで違和感がありました。でも、そこで多くの発見に出会い、全てが新しく新鮮でした。ホストファミリーは温かく迎えてくれ、子供達とは沢山遊び充実した 5 日間でした。特に印象に残ったのは収穫祭です。仮装をしたりドーナツ食い競争をしたり、歌を聴いたりカボチャに絵を描いたりと楽しみました。高校のお化け屋敷にも連れて行ってくれました。この体験は私の視野を広げてくれました。互いの国の文化の良さを体に感じて、これまで以上に日本の文化を大切にし、他国の文化を知りたいと思いました。

河内 葵衣
AOI

三野中学校３年

5 日間のホームステイの中で最も印象に残っている出来事は、ホストファミリーと一緒にボードゲームをしたことです。ルールの説明も英語なので、初めは理解できず大変だったけど、丁寧に教えてくれたおかげで白熱したゲームになりました。私は英語を話すことがあまり得意ではないのでホームステイをすることに初めは不安もあったし、迷いもありました。ですが今は、本当にこの活動に参加することが出来て良かったと思っています。素晴らしい出会いが出来たことに感謝し、この経験を生かしてこれからも成長していきたいです。

2023 姉妹都市 交流親善団体験記

内田 一花　ICHIKA
池田中学校２年

私は、アメリカ人と日本人の気遣いの差について気づいたことを紹介する。日本人は気遣いができるということが有名だ。しかし、私は過度な気遣いもしているのではないだろうかと考えた。例えば、服屋さんに入った時、「何かお探し物はございますか？」と声をかけられた経験はあるだろうか。おもてなしだと解釈することもできるのかもしれない。だが、これを過度な気遣いだと思う人もいるだろう。それに対しアメリカは、そのような気遣いがないと気がついたのだ。日本の文化はとても素晴らしいがもっと気楽に人と接することも大切かもしれない。この他にも沢山の発見を得られることができ、有意義な一週間を過ごすことができた。

村中 音色　NEIRO
三野中学校３年

ダルズ高校の学生と一緒に、クッキーに絵を描いた事と、音楽の授業を受けた事が印象に残っています。クッキーにはガイコツの絵を描きました。絵や色使いにみんなの個性が出ていて面白かったです。音楽の授業では、応援歌の演奏を聴いたり、アメリカの国家を歌ったりしました。ホストファミリーは、とても親しみやすく、私達が理解しやすいように言葉を選んでくれて、コミュニケーションをとることができました。今回の研修で、まだ自分に十分な英語力が無いと実感したので、この経験を生かして英語をさらに学びたいと強く思いました。

上笹 快斗　KAITO
井川中学校３年

初めてアメリカの大地に足をつけた時、私は喜びで胸がいっぱいになりました。ホストファミリーは家族みんなが私を温かく迎えてくれました。アメリカに行って一番感じたことは、街の人みんながフレンドリーなことです。お店や学校、博物館など、どこへ行っても気軽に話すことができ、とても印象に残りました。派遣事業を終えて、自分が成長できたと思うことがあります。今までなら街中で外国の方を見ると少し距離を取っていたのですが、先日外国の方を見かけると話をしたくなりました。今回の姉妹都市交流で私は素晴らしい体験をすることができました。この経験をこれからの生活に活かしたいです。

中村 新太郎　SHINTARO
池田中学校３年

僕が、ダルズに行って
思い出に残っていることは２つあります。１つ目は、アメリカの高校では授業中お菓子やジュースを飲んでいたことです。これは日本とアメリカの異なる文化で、日本ではあまり体験できない事だと思います。２つ目は、ホストファミリーと一緒に銃を撃ちにいったことです。アメリカの銃社会を知るとてもいい経験になりました。
日本語が通じないので頑張って英語を使い話をしようとしましたが、分からないことがあった時、あきらめず何度も聞くと理解できました。今回の経験で何ごとにも諦めずに挑戦することが大事だと知りました。多くの方の協力があっての４年ぶりの交流会ができたとの事だったので心から感謝しています。

北岡 遼太郎　RYOTARO
井川中学校３年

私のホームステイはおもしろおかしいものになりました。朝からホストファミリーと写真を撮ったりボディソープとシャンプーを間違って使って頭からめちゃくちゃ甘い匂いがしたりと毎日充実しました。特に印象に残ったのはオレンジジュースの件です。ホームステイ初日にオレンジジュースは好きかと聞かれましたが早口で言われたので何も聞き取れずにＮＯと答えてしまいました。数日後になにか飲みたいものはありますかと聞かれ勢いよくオレンジジュースと言ってしまい、ちょっとしたハプニングになりました。質問の意味がわからないまま答えるんじゃないと学びました。

松下 心花　MIHANA
池田中学校３年

私は初めてアメリカを訪れ、現地の
人々と触れ合う事で、旅行では絶対に得られない学びをし、充実した日々を送ることが出来ました。私が一番驚いたことは、皆が個性を出し、お互いに尊重し合っていたことです。ダルズの学校を訪れた際、生徒たちは皆好きな髪型にしたり、好きな服を着たりしていました。日本では考えられないようなことで、私もとても驚きました。一人一人個性を出すことで、自分にはない考えを知ることができ、新しい発見をすることにもつながると思いました。そして、アメリカの生徒は個性を尊重し合う事の大切さを日常生活から学んでいるのだと感じました。
今回の経験を通して、これからの生活で、個性を大切にしていきたいと強く思うことが出来ました。ダルズの生徒たちと接して、個性を表に出すことは恥ずかしいことではなく、とても格好いいものだと感じました。そして、お互いに個性を尊重し合うことの重要性も改めて感じることが出来ました。これからも、日本だけにとどまらず色々な国を訪れて視野を広げていきたいと心から思いました。

佐古 緋彩　HIIRO
池田中学校３年

今回の姉妹都市交流で、ダルズ市内の中学校や高校へ訪問した際、自分と歳が変わらない生徒達が積極的に発言している姿を見て自分の気持ちや意見を大切にしている事、それを周りに伝える事の大切さを感じました。言葉が伝わらなくても相手を思いやり理解しようとする気持ちを忘れず、素直に、また積極的に自分の気持ちを伝えることが出来るよう成長していければと思いました。またこのような貴重な体験をする中で温かく迎えてくれ、家族のように接してくれたホストファミリーの方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。銃に触れる機会やアメリカの歴史に触れられる機会を持ち、異文化交流の楽しさを知りました。
いつかまた再会した時には成長した自分を見せられるよう頑張りたいです。

藤本 奈緒　NAO
池田中学校３年

私はダルズの人々との交流で、言語が異なっていても相手に誠心誠意に伝える気持ちがあれば、コミュニケーションを取ることは難しく無いのだと気づきました。最初はうまくコミュニケーションを取れないことに不安を感じていましたが、ホストファミリーと互いにジェスチャーや翻訳機で会話を楽しむことができ安心しました。私は彼らにお金には代えられない、大切なものを沢山貰いました。今回の経験を生かしこれからも英語の勉強に励み、自身がもっと成長できるように挑戦していきたいです。最後に、ダルズ市との交流に参加させて頂くことができて良かったと思っています。ありがとうございました。

大西百椛　MOMOKA
池田中学校３年

ダルズで私が訪れたレストランでは、注文をとる際に「気分はどうですか？」「味は美味しいですか？」などと、店員の方が声をかけてくれましたが、英語力の乏しさや恥ずかしさから、何も返すことが出来ませんでした。しかし、誰にでも積極的に話しかけているダルズの皆さんに影響を受け、いつの間にか私も臆することなく話しかけるようになっていました。おかげで、ホストファミリーとの仲も深まり、かけがえのない友人もできました。この経験から、積極的なコミュニケーションが、かけがえのない人々との出会いにつながることを学びました。

2023 姉妹都市 交流親善団体験記

森 智優
池田高校１年

初めてのホームステイを通して、積極的に話すことに自信を持てたと思います。最初は、毎日英語でコミュニケーションをすることに、自分の意見を伝えることができるのか不安がありました。様々な感情が入り混じった交流でしたが、ホストファミリーは私のつたない英語でも耳を傾けてくれ、身振り手振りを使って表現してくれました。円滑ではない会話でしたが、自分の意思を伝え合う大切さが身に染みました。外では野生動物にたくさん出会い、中学校や高校ではダルズの人々と交流し、壮大な大自然を目の当たりにして、本当に貴重な体験をしたと思います。
文化も環境も違う場所で過ごした７日間。ホストファミリーは、「なんでも挑戦するその心意気は、あなたの人格を作る」と教えてくれました。その言葉は、今でも、そしてこれからも忘れることはありません。このような機会を与えてくださった全ての方々に感謝し、心の糧にしていきたいです。

中村 木の実
池田高校２年

あっという間に過ぎ去った一週間。
交流や、ホームステイを通して様々なことを学ぶことができました。英語がぎこちなく言葉が伝わらないこともありましたが、現地の皆さんはいつも耳を傾けてくれて、話を楽しむことができました。話の後に正しい発音を教えてくれて盛り上がったことが印象に残っています。
国が違っても人の気持ちは変わらないんだと今回の研修を通して感じていました。ザ・ダルズ市での体験は私にとってかけがえのないものになりました。

吉田 朱菜
池田高校２年

今回のホームステイで私が一番楽しかったことは、ホームステイ先のおばあさん、ジュディさんと朝食を一緒に作ったことです。主に、イングリッシュマフィンに、ベーコン、チーズ、スクランブルエッグを挟んで食べることが多かったです。最終日はパンケーキを焼いて、裏庭の見える小さめのテーブルに二人並んでミニパーティーをしました。朝食を作っている間、ラジオから流れる音楽を聞いて、一緒に踊りながらベーコンを焼いたり、ジュディさんの家族のことを教えてもらったりした時間がとても幸せに感じました。知り合って数日しか経っていないのに、あの場所が自分にとって居心地の良い、幸せな空間になったのは、ダルズの人達が、優しく、フレンドリーだったからなのだろうと思います。

吉田 実紘
池田高校１年

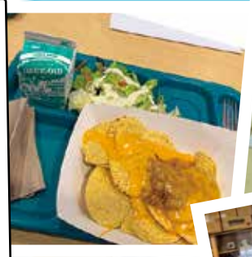
ダルズ市へ訪問して１番心に残ったことは、訪問して３日目からの出来事です。残念ながら私は、訪問３日目でインフルエンザにかかってしまいました。しかし、そのような状況でもまた違った体験をすることができました。それは、アメリカの病院に行ったことです。アメリカの病院は日本とは違い、診察室がとても狭く、席はとても高かったです。しかし、病院の１つの工夫として、私のような英語を話すのが苦手な外国の人がきちんと自分の病状を伝えられるよう、翻訳サービスを使っていました。そのおかげで、安心して診察を受けられました。また、隔離中は現地の人々のあたたかさを、色々なところで感じることが出来ました。このような体験をしたおかげでアメリカにまた行きたいと思い、英語の勉強を頑張ろうと思いました。

熊澤 清乃
池田中学校３年

交流を通して、特に、学校やホストファミリーとの時間が強く印象に残っています。数学の時間、戸惑っていた私に「一緒にやろう。あなたとやりたい。」と言ってくれた女の子。素直にまっすぐ思いを伝えたくれたことに救われ、とても感謝しています。また、マケール家のみなさん。私に伝わるまで英語を話してくれたり、私の拙い英語を理解しようとしてくれたり、そのおかげで、「伝える力」「理解する力」をのばすことができました。
　人のあたたかさを感じ、異文化を体験した７日間。ダルズのみなさんにまた会う日まで、この学びを生かし、成長をし続けていきたいと思います。

川原 楓瑛
山城中学校３年

私は今回の派遣事業で様々な事を体験しました。まず、学校です。沢山の生徒たちがフレンドリーに接して来てくれました。授業中は、先生にあてられた生徒が「答えません。」と拒否をしていた事には少し驚きました。次に、ザ・ダルズ市内を探索したことです。本屋や警察署、市役所などに行きました。警察署では、手錠を掛けられたり、防弾チョッキを着用したりと、日本ではなかなか出来ない体験をさせてもらいました。市役所では、私たちを１年間ザ、ダルズ市民としてくれた事もとても嬉しかったです。ホストファミリーの方々もとても優しい人ばかりで楽しい思い出が沢山出来ました。是非、また行きたいと思いました。



井下 凜子
山城中学校３年

特に印象に残ったのは英語です。学校の授業に比べて早く、知っている単語でなんとなく理解して話をしました。英語には敬語がないのでこの言い方で失礼ではないのだろうかと不安になりました。ホームステイ先では英語版の三好市のパンフレットを使ってうだつやかずら橋、自分の家などについてできるだけ知っている単語で紹介しました。必死に伝えようとするとホストファミリーの方が理解してくれて伝わった時はとても嬉しかったです。
　たくさんの方々のおかげで充実した１週間を過ごすことができました。感謝の気持ちを忘れずこの経験を将来に活かしていきます。

竹内 莉奈
池田中学校３年

姉妹都市交流で学んだことは２つあります。１つ目は、アメリカに対する気持ちの変化です。これまでは刺青を彫ったり規則や校則がゆるかったりと「自由すぎる」というイメージを抱いていました。しかし、その中には個性を大切にするという「多様性」が尊重されていることを知りました。２つ目は、現地の学校で出会ったオリビアから言われた「you should have lots of confidence」という言葉です。アメリカで自信をなくしていた私に、たくさんの人がこの言葉のようにほめてくれたり、自信をつけてくれたりしました。自分らしく！自信をもって生活している人が多く、とても元気づけられました。アメリカでできた友達とは今もSNSを使って交流がつながっています。今度みんなが日本に来た時には、是非魅力を伝える側になりたいです。